

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	その人らしく生きる、超高齢者の腹膜透析の一症例
演者名	中村 良一
所属	医療法人社団 良優会 駒沢腎クリニック

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究	NO.
	4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	1
目的：超高齢社会を迎えて、患者の平均年齢も高まっている中、きつい食事療法を続けて好きなものも食べられずに人生を終わることの寂しさを患者から聴取したとき、体に優しい透析をすればその人らしい人生の最期を計画することも可能であると考えた。最近、当院では超高齢の腹膜透析患者を受け持つことが多くなっている。基幹病院との協働により、腹膜透析がその人らしい生活のための手助けとなって元気に働いている症例を経験したので報告する。 方法：症例は 84 歳男性。高血圧、慢性腎臓病、左腎結石(腎摘出)術後、薬局を営んでいる。78 歳の頃から手根管症候群や糖尿病治療等で入院加療と通院をしてきたが、加齢にともなう徐々に腎機能悪化し、腎代替療法の選択を視野に入院し薬局の仕事を続けたいという希望にて腹膜透析を導入した。平成 26 年 84 歳で腹膜透析導入した。しかし、入院中にカテーテル出口部より透析液が漏れるという状況となり、一時中止した。退院後は、在宅の状態を見てほしいという基幹病院との連携で訪問診療開始となった。順調に腹膜透析は出来ていたが、退院 10 日目に夜間出口部から透析液が漏れ出し下着が濡れてしまうという現象があり、導入病院受診。幸いに感染兆候はなかったが 14 日間腹膜透析中止とし、カテーテルの安静を図った。現在貯留液を減量し腹膜透析を再開している。減塩食が出来ず血圧が上昇気味であったが、宅配弁当などを活用し減塩にも慣れ、血圧も安定し希望通り薬局の仕事や役員の会議にも出かけ忙しい毎日を送っている。 考察：その人らしく生きることは大いに意義のあることだと感じている。生き生きと長生きできることの喜びを感じながら年を重ねて行くことを喜んでいる患者をみて、在宅療養生活を支えるという重要な役割を痛感している。今後、超高齢の患者に対して体に優しい透析を行うことで、その人の考える人生が実現できることを願っている。		